

BIC 2年ぶり栄冠



男子1部決勝 BIC-那覇西クラブ 後半11分、BICの東弘起(右)が、中央から倒れ込みながら21点目のシュートを放つ=八重瀬町・東風平運動公園体育館(我喜屋あかね撮影)

県一般ハンド

ハンドボールの第46回県一般選手権大会最終日は14日、東風平運動公園体育館で男女1、2部の決勝が行われた。1部男子はBICが26-25で那覇西クラブを下し、同女子はレキオクラブ

ブがシーコルスに23-22で逆転勝ちして、共に2年ぶりの優勝を果たした。2部男子はマルユウハウジー、同女子はアッシュ、マスターズの部は、沖縄教員がそれぞれ頂点に立った。

男女1部の上位2チームは九州一般選手権(5月・熊本)の出場権を得た。

沖縄ク	35	21	14	15	11	26	コサク
レキオ	23	13	10	9	13	22	シーコルズ
アッシュ	28	12	16	11	11	21	琉球大
マスターズの部	17	5	9	9	15	15	コサク
沖縄教員	17	5	9	9	15	15	コサク
同決勝	BIC	26	12	14	13	25	那覇西
男子部決勝	マルユウ	38	20	18	13	23	CORE
女子部決勝	アッシュ	38	20	18	13	23	CORE
女子部決勝	レキオ	23	13	10	9	13	22
女子部決勝	アッシュ	28	12	16	11	21	琉球大
マスターズの部	17	5	9	9	15	15	コサク
沖縄教員	17	5	9	9	15	15	コサク

GK加藤、1点死守

BICが、那覇西クラブの猛攻を振り切り、逃げ切った。前半を14-12で折り返したBICは、後半14分には、この日最大の8点差をつけたが、ここから那覇西の反撃に遭う。

22分から6連続ゴールを奪われ、2点差に迫られると、さらに那覇西に7点差を与えた。このピンチにBICは、切り札のGK加藤を投入。加藤は「前日も、残り30秒での7点を止

めて勝った。チームを盛り上げるためにも絶対死守するつもりだった。冷静にシュートコースを読み切り、これを止めてみせた。最後は1点差まで迫られたが、全員が体を張った守りで、どつかに切り抜けた。

5得点を挙げた東弘起は「主力が出場できなかった分、団結して臨んだ」と接戦続きの大会を振り返り「今後とも奮闘を大切にしたい」とチームメイトを鼓舞する。加藤は「前日も、残り30秒での7点を止

ベテランと新加入の若手がかみ合い、レキオクラブが頂点に立った。レキオは、前半の劣勢から一転し、後半は、今季から加わった稲福麻里、前田千春らが活躍。徐々に勢いを取り戻すと、後半22分、同点に追いついた。

22分を迎えた後半29分、レキオの東江正作監督はタイムアウトを要求。選手に指示を出すつもりが、逆に選手から戦術提案を受けた。東江監督は「チームとして一体感

女子レキオ、逆転勝ち

が見え、成長を感じた。いけると思った。

稲福、前田らが相手守備陣をかき乱。わずかな隙をついてベテランの佐久川かおりが、シュートを決め、逆転勝利を飾った。

新人の稲福は、3月に高校を卒業したばかり。「2試合目で緊張していたが周りがフォローしてくれた」と振り返り「守備には自信がある。自分が犠牲になって、勝っていきな

い」と今後の躍進を誓った。



女子1部決勝 レキオクラブ-シーコルス 後半29分、レキオクラブの佐久川かおり(左)が23点目のシュートを決め逆転

新人が大活躍